

主題 「接続期の教育の充実を目指して」 ～地域の子どもにあったカリキュラムの作成と実践～

保幼小連携研究班 高橋 俊江 (若葉保育園 主任保育士) 白藤 千恵美 (大谷幼稚園 教諭)
新 淵 ゆかり (湯本保育園 主査) 高木 宏子 (花巻幼稚園 副園長)
市野川 淑子 (若葉小学校 教諭) 西城 佐喜枝 (桜台小学校 教諭)

1 主題設定の理由

平成22年・23年度、保幼小連携研究班では、接続期のカリキュラム作成を通して、子どもの発達過程や他施設での保育内容・教育内容を理解するとともに、共通の解釈に基づいて、取り組みを見直すことにより、各施設での保育・教育の充実を図ることができると考え研究を進めてきた。平成22年度は、子どもの実態把握に基づき、接続期のカリキュラムの素案を提示し、接続期の実践に向け、取り組みを促し、平成23年度は接続期のカリキュラム素案に基づく実践により改善点を明確にし、保幼小の連続性を考慮した接続期のモデルカリキュラムを提示した。各施設においては、カリキュラムをもとに、接続を意識した保育並びに教育が行われ始めているが、施設間の連携については、今後さらに充実させていく必要があると考えられる。

今年度は、既にスタートカリキュラムの編成に着手している学校もあると思われるが、それぞれの施設が単独でカリキュラムを編成していくのではなく、接続期の連続性・一貫性を考慮して、地域の保育園・幼稚園・小学校と連携を図り、地域の子どもの実態に合ったカリキュラムを作成・実践することが必要であると考え、本主題を設定した。

2 研究の計画

- (1) 地域性を考慮したカリキュラムの作成
- (2) カリキュラムを生かした実践
- (3) 保幼小研究員が連携した実践

3 研究内容

- (1) 各施設によるカリキュラムの作成
- (2) 各施設による実践とまとめ
- (3) 事例集の作成
- (4) 保幼小研究員の連携実践と発表 (花巻市保幼小連携全体研修会全体会にて)

「幼児期から小学校の指導の連続性を考慮した啓発のあり方～保護者懇談会の講話を通して～」

4 成果と課題

(1) 成果

① 地域の子どもにあったカリキュラム作成の効果

・学習参観や給食参観といった職員の指導や交流について、1年間の中に位置づけられてきており、中心となる小学校が舵をとることで、連携がより一層進んできた。

② 共通理解による接続を意識した指導

・互いに参観することにより、それぞれの子どもの姿から、発達や育ち、学ぶ姿勢を捉えたり、互いの職員が話し合いを重ねることで、指導方法を始めとする保育や学習のあり方等を理解したりすることができた。また、職員や子ども達の交流を積み重ねていくことで、互いに理解し合い、共通の理解の下で接続を意識した指導を進めることもできた。

(2) 課題

① 無理のない連携と積極的アプローチ

・限られた時間の中での交流や参観となるので、互いに無理のない日程や時間の確保を図っていく。その際、新たな事業を起こすことよりも、今ある行事等を生かし、地域カリキュラムの事例を参考にしながら継続可能な取り組み方を検討していく。

・年間計画を作成、実践していく中で、よりよい連携を図るために、互いに新たな意見を出し合い、可能なことに関しては、軌道修正を図るようにしていく。

② 組織としての連携と継承

・担当者間だけで理解を図っていくことが難しいことが多々あるので、各施設内での組織運営の在り方の更なる見直しと連携に対する全職員の共通理解を広めていく。

・担当者の配属や担当学年等が変わっても、連携してきたことが次に継続して活用できるように、実施したことをきちんと記録し継承する取り組みを今後も推進していく。

【参考文献】

- ・厚生労働省(2008) 保育所保育指針 (<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/hoiku04/pdf/hoiku04a.pdf>)
- ・文部科学省(2008) 幼稚園教育要領 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm)
- ・文部科学省(2008) 小学校学習指導要領 (http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo/)
- ・文部科学省 「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方について(報告)」(2010年) (http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/070/houkoku/1298925.htm)